

**洗足学園音楽大学**

**洗足ウインド・シンフォニー演奏会**

2021年11月28日（日）15:30開場／16:00開演

会場：洗足学園 前田ホール

# ごあいさつ

洗足ウインドシンフォニー演奏会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

演奏会の度に、教育の成果発表と考えて選曲する、或いは、大学として見識を持ったプログラミングを目指す。この2つの考えに挟まれて来ました。洗足ウインドシンフォニーのプログラミングは悩ましく、そして楽しかったのです。

前半は、20世紀を代表する吹奏楽曲、2曲です。1950年以降の作品ですが、シンフォニックなサウンドが構築されており、吹奏楽界の貴重な財産と言えるでしょう。音大生が1度は通って欲しい道筋と思いました。

後半は、舞曲を中心に取り上げました。アラルコンの作品は4年前の作品です。プログラミングでは常にOld&Newを心がけてきた気がしています。

現田先生を客演指揮にお迎えいたしました。現田茂夫先生の熱のこもった合奏練習、教えに、本日学生がどう答えるのか、非常に楽しみであります。

本年度のウインドシンフォニーの学生諸君の成功を、信じたいと思います。

洗足ウインドシンフォニー  
洗足学園音楽大学 吹奏楽委員長

池上政人

# PROGRAM

M1 ネリベル／2つの交響的断章

M2 ジャンニーニ／交響曲第3番

—休憩—

M3 アラルコン／インヴォカシオン

M4 アーノルド／4つのスコットランド舞曲

M5 グレーアム／ハリソンの夢

演奏：洗足ウインド・シンフォニー

指揮：現田 茂夫（客演）



## PROFILE 指揮：現田 茂夫（客演）

東京生まれ。東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)で汐澤安彦、三石精一両氏に師事。その後東京藝術大学で佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。1985年安宅賞受賞。1986年二期会オペラ「ヘンゼルとグレーテル」でオペラ・デビュー後、二期会オペラ「こうもり」等で活躍する一方、オーケストラコンサートでも実績を積む。1987年、新星日本交響楽団指揮者に就任。1988年来日中のドレスデン・フィルに客演。1990年新星日響とヨーロツパ演奏旅行。同年ウィーン国立歌劇場に国費留学。1991年スロヴァキア・フィルに客演。1992年プラハ国立歌劇場日本公演の指揮者として客演。同年プラハ交響楽団の定期公演に初登場し、翌年“プラハの春”での“佐藤しのぶリサイタル”は、センセーショナルにヨーロツパで放送された。1996年より13年間神奈川フィルハーモニー管弦楽団を指導し飛躍的に躍進させ、その功績も称えられ2009年4月より名誉指揮者の称号を得る。他の主要オーケストラとも数多く共演し高評を得ている。また、世界的チェリスト故ロストロポーヴィチと上皇后陛下の古希祝賀コンサート等で共演し高い評価を得た。オペラ指揮者としても経験豊かで、関西二期会、東京二期会を中心に数多くの公演を行なっている。“佐藤しのぶドラマチック・リサイタル”(全国ツアー)、“夕鶴”のカザフスタン/ウズベキスタン/東京公演、“天守物語”等、日本のオペラも積極的に行なっている。2004年秋にはブラチスラヴァでスロヴァキア国立歌劇場の「椿姫」を指揮し、さらに同日本公演でも好評を博した。2002年から15年は錦織健プロデュースオペラの音楽監督も務め全国公演。2011年はアンサンブル金沢と金沢歌劇座・兵庫県立芸術文化センター他(5都市6公演)で「椿姫」を公演。14年には市川右近(現三代目市川右團次)新演出“夕鶴”の全国公演も行い高評を得、16年に再演を行った。アントニオ・パドローティ国際指揮者コンクール(イタリア/トレント)の審査員や、NHKの「FMシンフォニー・コンサート」のパーソナリティを3年間務めるなど、バラエティに富んだ活動を行なっている。

# PROGRAM NOTE

## ネリベル/2つの交響的断章

ネリベル(1919-1996)はチェコスロバキアで生まれ、アメリカ合衆国で活躍した作曲家のうちの一人である。ノースダコタ州立大学の委嘱作品であり、1970年に出版された。この曲は題の通り2つの楽章からなる。

### 第1楽章 Marcato

全曲の基本動機である鍵盤打楽器のD-A-F-Bから始まる。その裏で金管楽器が和音を重ねていき、徐々に壮大な響きとなる。基本動機の鳴り響く中で、木管楽器のソロが絡み合う部分や、コーラルが差し挟まれ、最後は消えていくように終わる。

### 第2楽章 Allegro impetuoso

ティンパニの力強いソロから始まり、金管がそれに応える。この楽章も基本動機が繰り返し用いられている。第1楽章とは対照的なスピード感の中で展開され、冒頭のフレーズが激しく再現されたのち、叩きつけるように曲を終える。

(ホルン 種子田 佳歩・直田 真潮)

## ジャンニーニ/交響曲第3番

ヴィットリオ・ジャンニーニ(1903~1966)はイタリア系アメリカ人の作曲家。フィラデルフィアの音楽一家に生まれ、9才でミラノ音楽院に留学し、15才でアメリカへ戻りジュリアード音楽院で学ぶ。またジャンニーニは、ジュリアード音楽院、カーティス音楽院、マンハッタン音楽院で教鞭をとり、最終的にはノースカロライナ芸術学校の創立者として教鞭をとった。彼の教え子には、ジョン・コリリアーノ、デビッド・アムラム、アドルフス・ヘイルストーク、アルフレッド・リード、ニコラス・フラジェッロ、トーマス・パサティエリなどがいる。

今回演奏する交響曲第3番は、1958年の夏にジャンニーニが休暇を過ごしていたイタリアのローマで、デューク大学バンドとその指揮者ポール・ブライアンPaul Brynnerの委嘱を受けて作曲された。ジャンニーニは全部で5つの交響曲を作曲しているが、この交響曲第3番だけが吹奏楽のために作曲されている。交響曲というとオーケストラのイメージが強いが、ヴィンセント・ペルシケッティやモートン・グールド、アラン・ホヴァネスなどの著名な作曲家によって、吹奏楽のために書かれた交響曲が幾つか存在する。1950年代から1960年代にかけては、管楽器のレパートリーとしての本格的な作品が生まれやすい時期であり、1952年にイーストマン・ウィンド・アンサンブルが設立されたことも相まって、多くの大学で管楽器や打楽器のアンサンブルが設立された時代であった。ジャンニーニの交響曲第3番は、そういった時代の代表的な作品である。

この作品はソナタ形式による第1楽章(Allegro energico)、3部形式による第2楽章(Adagio)、ロンド形式による第3楽章(Allegretto)、そして再びソナタ形式による第4楽章(Allegro con brio)の4つの楽章で構成されており、いずれも美しい旋律と厳格な形式をもっている。第1楽章のおおらかな第1主題、それと対照的なゆっくりとしたバラードのような第2主題の見事なコントラスト、オーボエの独奏にはじまる叙情的な第2楽章、3/4拍子と6/8拍子の3拍子と2拍子の複合リズムによる軽快な第3楽章、短いが活気にあふれた第4楽章と、変化に富んだ、しかもロマンティックな旋律や感情に満ちた作品となっている。

(トロンボーン 津吹亮汰)

## ルイス・セラーノ・アラルコン/インヴォカシオン〜「エル・プエルト」を元にして〜

ルイス・セラーノ・アラルコンは1972年生まれ、スペイン ヴァレンシア出身の作曲家、ピアニスト、指揮者である。彼が作曲したこの作品は既存の曲を変化させることをテーマとして作曲されている。ピアニストでもある彼は若い頃にイサーク・アルベニスの組曲イベリアの2曲目のピアノ曲「エル・プエルト (港)」を演奏し、本作品はそれを元にして作曲を行なった。

曲名である「インヴォカシオン(Invocacion)」というタイトルも、組曲イベリアを元にしてしている。組曲の1曲目がエヴォカシオン(Evocacion)という曲であり、作曲者の遊び心が表れている。

言葉は似ているが、意味は対照的であり、それぞれ、「喚起(evoking)」、「祈り(invoking)」といった言葉を元にしてしている。「喚起」とは、突然思い起こすこと、または外部の何かによって刺激されることを意味するが、「祈り」はリクエスト、自らの意思を意味している。作曲者は、「祈り」を表現すべく、アルベニスの原曲をより速いテンポとよりリズムカルなキャラクターに変えることで、曲のテーマである「変化させる意思」を示し、より儀式舞曲の個性に近づけるように作曲を行なった。スペインのリズムである独特の3拍子を、現代の作曲法で纏め上げている様をお楽しみ頂きたい。

(ユーフォニアム 石倉雄太)

### アーノルド/4つのスコットランド舞曲

マルコム・アーノルドは近代イギリスを代表する作曲家の一人とも言われ、9つの交響曲をはじめ、多くの管弦楽曲、映画音楽など多方面に渡って活躍した。この作品は1957年、イギリスのBBC放送主催のライト・ミュージック・フェスティバルのために作曲され、全4楽章で構成されている。

#### 第1楽章 Pesante

スコットランドの舞曲で、4/4拍子でやや激しく変化に富んだスタイルの曲。冒頭の旋律のリズムがとても印象的で、このリズムが終始支配する。

#### 第2楽章 Vivace

4/4拍子の舞曲で、スカンジナビアからスコットランドに移入された速い曲である。

変ホ長調ではじめられ、同じ旋律が繰り返されるたびに半音ずつあがっていきバスーンで奏せられるト調まで繰り返され、最後の舞曲で再びもとの変ホ長調に戻る。

#### ●第3楽章 アレグレット (快速に) Allegretto

ヘブリデー諸島(スコットランド北西部の島)の歌のスタイルをもち、この島々の夏の日の海や山の印象を表現されている。

#### ●第4楽章 コン・ブリオ (輝かしさをもって) Con brio

この楽章はサクソフォーンが受け持っているヴァイオリンの解放弦によるアルペジオを多く用いた活発なフィーリングをもつ曲である。

(クラリネット専攻 橋本 治樹)

### グレーアム/ハリソンの夢

タイトルの「ハリソン」とは、18世紀イギリスの時計職人ジョン・ハリソン(1693~1776)のことである。彼の生涯を描いた『経度』(デーヴァ・ソベル著)に感銘を受けたピーター・グレーアムによって、アメリカ空軍ワシントンD.Cバンドの委嘱で作曲された。

7つの海を制する大英帝国=イギリスであるが、18世紀当時「経度」を計測する手法が無く、国家的な問題となっていた。1707年に2000名が犠牲になる海難が起きたことを受け、イギリス議会は「海上で経度を測定できる方法」を発見した者に巨額の懸賞金を与えることにした。

当時有力だった方法は「天体の位置から測定して割り出す」「出港地の正確な時間から経度を算出する」二つのみであったが、後者の方法に必要な不可欠な「どんな環境でも正確に動く海上時計」は当時の技術では現実的ではなかった。

天文学者達が研究に打ち出す中、その「海上時計」の開発に挑んだのが、無名の時計職人ハリソンだった。数年かけて最初の海上時計を作るも、実用性がないことから自ら改良を申し出る。途中、天文学者達に嫌がらせを受けるなど苦難も多かったが、約40年の歳月をかけて、懐中時計サイズの海上時計を完成させた。

作品にストーリー的要素はないが、「時計」をテーマに、グレイムによって全編にわたり非常に計算的かつ数学的に作られている。規則的なリズムと不規則なリズムが入り乱れる様子は、時計職人であるハリソンの苦しみを描くようである。

強烈な打楽器のビートで幕を開け、続く木管楽器の速いパッセージはハリソンの作業場を表すとされている。重厚な低音に乗って金管群による荘厳なフレーズが提示された後、一度静まり陰鬱なファゴットソロが登場。再び熱狂し、断片的だった旋律が全容を現す。続いて複雑なリズムの組み合わせによる、4拍子で表記されたグロテスクなワルツへ突入する。それが徐々に遠ざかり、哀しげで緊張感の高いフレーズを経て中間部が描かれる。

中間部は叙情的なエレジーで、海難で命を落とした者への鎮魂歌とも捉えられる。快速部と見事にコントラストが付けられており、美しいホルンソロが大変印象的である。8回の鎮魂のチャイムと共に、金管楽器・サクスの奏者が打つハンドベルとウォーターゴングによる幻想的な響きの後、冒頭部が再現される。

再現を終えると「時計」の役であるウッドブロックを軸に、輝かしいチャイムと高音楽器のリズム、木管楽器の速いパッセージ、より厚みを増した低音、そして高らかに歌うホルンが重なり合って高揚しクライマックスへと突入。中間部の旋律と分散和音が交錯し、ハリソンを讃えるかのような壮大なサウンドが描かれる。讃えられるのは単に栄光ではなく、困難の中で自身の理想と信念に基づき挑戦と探究を続けた、一人の職人の姿である。やがて旋律は遠くぼやけて溶け合い、最後はクレッシェンドしていくB♭音で幕を閉じる。

**(サクソフォン 矢澤 亘)**

# 洗足ウインド・シンフォニー Member

企画運営責任者	池上 政人				
Concert master	齋藤 要助	加藤 明日香			
Flute	川野 真奈 町田 花音	小林 千夏 池田 徳羽子	清水 涼花 菊地 晃空	福井 麻菜 山上 智寛	園田 凧琉
Oboe	佐藤 千尋	上原 史織 <sup>#</sup>	堀 友香 <sup>♪</sup>		
Clarinet	加藤 明日香 木下 舞香 田村 慧太 <sup>#</sup>	小泉 和世 成瀬 未涼 石井 綾菜 <sup>#</sup>	齋藤 要助 今泉 真緒 千葉 友希 <sup>#</sup>	橋本 治樹 浦川 乃阿 平野 佳太 <sup>#</sup>	磯崎 優香 杉田 愛実 <sup>#</sup>
Bassoon	及川 夏海	渡邊 陽南	福原 佑紀 <sup>♪</sup>		
Saxophone	倉元 明宏 兼田 柊子 中瀬 凱大	中崎 美羽 田中 亜耶 中原 雄太郎	船木 彩香 米田 諒士	本間 珠里 矢澤 亘	本間 美桜 鈴木 ましろ
Trumpet	清宮 衛介 高木 美雨 五月女 啓太	澁江 ワタル 冨永 倫 トルグット ハヴィン	中山 亜実 濱田 ほむら	山下 莉奈 檜山 沙南 樋口 萌々花	江原 春香 大津 泰
Horn	後藤 陸歩 石野 奈々	末永 廉 種子田 佳歩	佐藤 俊輝 直田 真潮	西川 宗辰	山口 亜希菜
Trombone	岩井 心 神野 葵	津吹 亮汰 中津 愛梨	米村 麻優 伴 芽衣菜	小森 豊生	篠塚 裕太
Euphonium	石倉 雄太	上柳 創大			
Tuba	石崎 義基 長谷川 夏帆	石田 健悟	重水 大輝	齊藤 徹也	鈴木 快門
String Bass	嶋野 晴斗	榎 さわ	安田 廉 <sup>#</sup>	高野 響花 <sup>#</sup>	
Harp	大隅 レオナ <sup>#</sup>				
Piano	西村 京一郎 <sup>#</sup>				
Percussion	近藤 花音 天谷 芽生 横木 秀真	濱出 美咲 江原 和紀 佐山 果凜	馬島 啓 櫻井 秀悠 廣木 太陽	松井 菜々子 栃下 紗奈 宗像 桃子	村山 みなみ 中田 実紅
指導教員	前田 綾子 松本 健司 中山 隆崇 次田 心平	泉 真由 中田 小弥香 本間 千也 當仲 絵理	田渕 哲也 貝沼 拓実 池上 亘 秋田 孝訓	有馬 理絵 田中 拓也 岩黒 綾乃 石井 喜久子	郡 尚恵 勝俣 泰 小久保 まい
授業助手 Academic Coordinator	北野原 由依 横山 仁一				

<sup>#</sup>=演奏補助要員 <sup>♪</sup>=賛助出演